

- (3) 期日・会場・参加者
- ①期 日 昭和47年9月23日～25日（2泊3日）
  - ②会 場 国立磐梯青年の家
  - ③参加者 男子9名 女子7名 計16名（本県）

(4) 研修方法

- ① 磐梯登山 「集団登山を行なうなかで、規律・協同・友愛・連帯・奉仕等について体験するとともに、体力の増強をはかる」
- ② 情報交換 「学習活動の状況の交換をとおし、今後のあり方を次める。」
- ③ ファイアーのつどい  
「燃えあがる“若人の火、をかこみ、過去をふりかえり、現在をみつめ、未来について考える」
- ④ 講演 「旅と人生」  
演題 講師 財団法人 交通協会理事 渡辺公平
- ⑤ 分科会テーマ  
「青年学級（教室）にあなたは何を求めたか。その結果はどうであったか。今後の改善にどうとりくむか」

(5) 効果

全国の青年学級・教室がかかえる諸問題が多いなかで、青年の学習欲求は何か、魅力ある青年学級・教室とは何か等について真に青年の求めているものについて研究協議が行なわれたことは、非常に効果的であり、今後の波及効果を期待したい。

8. 県研究青年学級の委嘱

(1) 趣旨

勤労青年教育の重要性にかんがみ、青年学級の充実方策とくに開設・運営・学習指導についての実験的な実験研究を行ない、本県勤労青年教育の振興に資する。

(2) 研究委託青年学級名

教育事務所	教育委員会名	青年学級名
県北	福島市教育委員会	福島市中央青年学級
県中	須賀川市教育委員会	須賀川市勤労青年学級
県南	棚倉町教育委員会	棚倉町青年学級
会津	塩川町教育委員会	塩川町青年学級
相双	楡葉町教育委員会	楡葉町女子青年学級
いわき	いわき市教育委員会	江名女子青年学級

(3) 研究課題

①共通課題

「地域の実情と青年の動態に即した青年学級の開設と運営」

②研究課題

- ア 地域類型に適合した青年教育計画はどうあるべきか。
- イ 生涯教育における青年の学習
- ウ 都市における企業連けい。農村における各行政相互連けいによる学級の開設と運営。
- エ 青年の意識調査と学習内容の編成
- オ 青年学級の後援組織について

(4) 委託の期間・条件

①委託期間 昭和46～47年度 2年継続

②条件

「研究の成果について、県教育委員会に報告書を提出する」  
「委託の経費として、1学級あたり県費2万円を交付する」

(5) 効果

本年度をもって2年間にわたる研究委託は終了した。各学級とも2～3の課題を選んで、積極的に研究をすすめ、充実した報告書が提出された。この成果を「福島県研究青年学級の研究報告」としてまとめ、県下に配布したのでその波及効果が期待される。

9. 県青年教育研究協議会の設置

(1) 趣旨

進みゆく社会の変化は、青少年人口の都市への移動、都市化現象、青少年の意識の変化等に大きな影響を及ぼし、青少年育成上の諸問題が多面的にあらわれている。このような現状にかんがみ、心身ともに健やかな青少年の育成をめざし、青少年教育の振興をはかるため、地域の実態に適合した青少年教育計画を確立するための基礎研究協議を行ない、本県青少年教育の振興をはかる。

(2) 委員

教育事務所	氏名	職名	勤務先	住所
県北	七島 征	社会教育主事	福島市教育委員会	福島市堀河町4-8
"	笠原 憲昭	公民館長	福島市信夫公民館	福島市飯坂町字夜蚊坂
"	鈴木 信也	公民館主事	福島市中央公民館	福島市東浜町3-9
"	峰 光治	公民館主事	川俣町公民館	伊達郡川俣町字新中町
"	菅野久仁昌	公民館副館長	東和町公民館	伊達郡東和町太田字若宮
"	谷口 悟	公民館副館長	梁川町公民館	伊達郡梁川町大字白根字大久保
県中	相楽 新平	社会教育主事	須賀川市教育委員会	須賀川市大字小倉字山吹68
"	塩田 義男	教育長	平田村教育委員会	石川郡平田村大字下逢田字乙空釜13
県南	熊田 文雄	公民館長	大信村教育委員会	西白河郡大信村大字増見字金谷1
会津	舟山 豊	主査	会津若松市公民館	会津若松市栄町4-45
相双	紺野 信雄	公民館主事	鹿島町公民館	原町市桜井町2-8
いわき	岩並 貞雄	社会教育主事	いわき市教育委員会	いわき市常磐岩ヶ岡山ノ根8
学識経験者	渡辺 トミ	ガールスカウト福島連盟会長		郡山市大町2丁目13-2
"	折笠 常弘	田村高校教頭	県立田村高等学校	田村郡三春町字持合大田135
"	鈴木 友重	主査	県生活環境部青少年課	福島市森合字西の内68
教育事務所	丹治 成男	社会教育主事	県北教育事務所	福島市杉妻町2-16
"	菅野 健樹	"	"	福島市杉妻町2-16
"	大戸 和美	"	県中教育事務所	郡山市麓山1-1-1